

## 土俵際驚異の粘り腰 海産タイプ…残った！残った！！

土俵際で驚異の粘り腰。海産系一本に放流を絞った福井県南越前町の日野川(日野川漁協管内)が今年に入っても持ちこたえている。大きな出水がなければ今月いっぱいはいりっけそう。7日、同川に初挑戦した「飛騨のアユ師」を追った。(柳沢研二)

### 揺れるコスモス

コスモスが咲き乱れる小道を遠足の園児たちがゆっくりと歩いていく。のどかな光景とは対照的に緊張気味なのは、早川純弘さん(43)＝下呂市。ここ今庄の新河原橋下流で、午前9時の気温は-16度で水温は17.5度。「やっぱり海産は釣期が長いですね。同じ雪国でも飛騨は琵琶湖産が中心で、もう終了しました占と早川さん。この川の難易度は非常に高い。湖産とは違って、気まぐれな海産系をどう攻めるのか。まず、腰ぐらいの水深がある長トロに入った早川さん。じわりと泳がすといきなり目印が飛んだ。「うわー、よく引くね」とやり取りを楽しむ。22匹♀の野アユを手にしてから連発を交えて上積みしていく予想外?の展開だ。



### パターン見えた

先月の度重なる出水で25cmを超える大型は少なくなったが、アベレージ20cmの元気アユがサオを絞る。川沿いを走ると他県ナンバーの車が主だったポイントに止められて活気はある。ただ、10匹釣ればOKというノリは仕方がない。



魚影は濃くはないので、まずオトリ任せに泳がせて探る。「コトコト」と反応があった場所ではベタザオ気味にしてオトリの動きをセーブ。さらにオバセをなくして止め気味にし、狭いゾーンをウロウロさせて待つと掛かるパターンだった。小澤剛さん(39)のように追いの弱い海産には、「反応があった場所で止めて待つ」が基本だ。隣でカメラを構えて、あれこれ突っ込んだ質問するので、早川さんは「ちょっと10分ぐらい休憩しますので苦しんでくださいよ」とサオを私に渡した。オトリはスーと泳ぎ反応のある場所で止めると4連発で早川さんの言うとおりのわずかな時間だったが「止めて待つ」の重要性を改めて感じた。

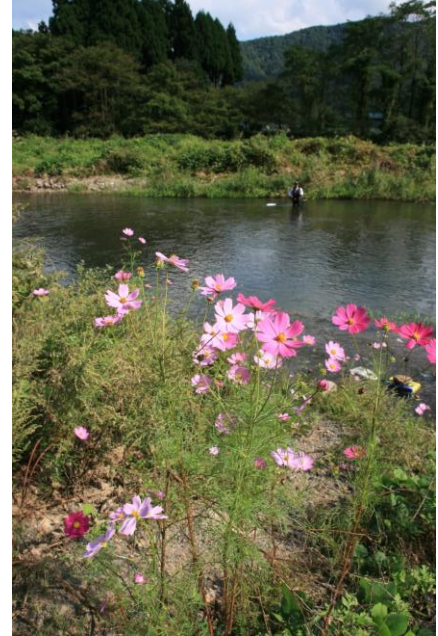
### しつこく攻める

低水温だったが真っ黄色なアユも交じり、昼までに15匹をクリアした早川さん。気分転換に移動を考えたが、このポイントには、釣り人がいなくて、まだ反応があったので続行。昼からも30分ほどを行ったり来たりする。ちょっと立ち込んで左岸寄りの底石を観察してみると、

握りこぶしから頭大の石が敷き詰められて樋状になっている。大きなハミ跡もしっかり。「ちょっと煮詰まり気味です」とマナーケースには、たばこの吸い殻がびっしり。ハリスを切った数ミリの糸も決して川に捨てない。ただ立てザオで泳がせているだけでは掛からないのがつらいところ。「のどがカラカラになるほど神経を使いますね。簡単に掛かるのが一番ですが、これが難しさでもあり、楽しさでもあるんですかね。苦しいのですが友釣りはやめられません」と早川さん。

### 遅い眠りを待つ

朝見かけた遠足の園児たちが元気にお帰りで。川ではまだ帰りたくないアユ師が1人。やがて曇り空となって冷たい風が吹き始めた。裏山に太陽が隠れると。アタリがなくなった。アユはサイズダウンして背掛かりは少なくなったが、しつこく粘る早川さん。やがて上流の深瀬に向かったが不発でまた元の場所へ。暗くなって目印が見えなくなるまで立ち続け、釣果は18i23<sup>号</sup>27匹だった。氷で締めるとサビのある魚体が目立つ。今シーズン、海産系の活躍でやっと目覚めた名川・日野川。星がまたたくなか、遅い眠りに就こうとしている川に別れを告げた



### 海産系生かす工夫を

第9回で「目覚め始めた海産系重い十字架を背負い盛期へ」(8月4日付)と日野川をご紹介したが、その後は快走。爆発的な釣果はなかったものの大健闘のシーズンだった。副組合長の篠田裕彦さん(69)一写真一は「海産系一本にして初めてのシーズンでしたが、遊漁者は昨年の2倍近くになる見込みです」と話していた。年券を3000円値下げして9000円にしたのも集客効果があったようだ。岐阜や滋賀の釣り入が目立ったという。

篠田さんによると、これまで好調だったのは、八飯大橋も合波橋にかけて燧橋一八乙女橋。ただ、ここに来てアユの動きが激しいので、慎重に川見をしてから入川を。泳がせだけでは歯が立たないことも多いので、反応のある場所で止めて待つことを意識してみよう。瀬では白泡下も狙い目で、いれば勝負が早い。前回登場した仲倉栄治さん(78)も大鶴目橋下で元気に楽しんでいるようだった。来夏の再開が楽しみだ。

海産タイプは低水温の初期には機能しにくい、高水温となる8月から本格的に掛かり始める。さらに釣期が長くなることも大きな特徴だ。琵琶湖産を「太く短く」に例えるなら、海産タイプは「細く長く」と言えるような気がする。ただ、機能し始める時に網が始まるのが、大きな障害。この川はサギリ(ソジ)を張って落ちアユを取るパターンが中心。先月H日から始まっているが、アユがまだ若いためにここに来て、やっと、まとまった数が取れるようになったという。まだ本格化するのには先になりそうで、それだけアユが若いということだ。篠田さんは「海産系の粘りにはびっくりしています。将来的には、この種苗の特性をさらに生かすために網の解禁を遅らせるなどの方策を検討したい」と話していた。さらに「日野は8月からの川ということもアピールしたい」と話していた。日野川が繰り出す次の一手が楽しみだ。